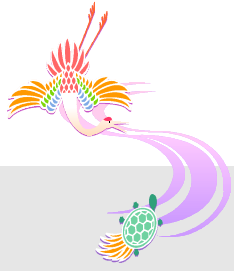


上宝かわら版 2023年 1月版



飛騨上宝自然人倶楽部

HIDAKAMITAKARA SHIZENJINCLUB



上宝を高齢者天国にしたい

「ここがまあ終の住み処か上宝！」

81歳の私が、住み慣れた東京の住所を上宝に移転した日に、駄洒落にしてノートに書き留め私の好きな俳人の小林一茶が50歳の時に詠んだ「これがまあつひの栖か雪五尺」を真似たジョーク（季語のない冗句）です。小林一茶は、1763年に信濃の農民の子として生まれ、苦難の人生を高い才能と強烈な個性をもって「生」をテーマにして日常生活の喜怒哀楽を65歳まで詠み続けた俳人でした。当時を上宝に当てはめると、1775年に処刑された本郷村善九郎と吉野村喜十郎の大原騒動を思い出します。更に上宝の義民として宮原村清十郎、蔵柱村徳左衛門も忘れてはなりません。私は上宝で12月を迎える度に12月5日の善九郎の処刑の日を思い出します。当日は雪が降っていました。18歳の若者が斬首の刑を少しも恐れることなく辞世の句を残します。「常磐木と思うていたに落葉かな」この句を書き留めた「夢物語」の記述について、一部の人は「18歳の農家の小倅に、こんな句を作れるはずがない」と言ったとか？寂しい話であると同時に、現代人なるものの上宝歴史認識の浅さを感じざるを得ません。上宝の人達は御上の不正に対して10,000人もが集まったのです。そして1,000人もが刑罰を受けたのです。善九郎だけが英雄ではありません。1,000人の人、いえ10,000人の人々が全員英雄なのです。この英雄を達を生み出したのは上宝の歴史土壌です。



「上宝農業地域は天からの恵みで作られた」

上宝は、日本でも有数の火山由来の段丘で構成され、何万年もの年月で風化され純粋な土壌微生物の働きと相まって、農業に最適な黒ボク土に覆われていることが分かりました。日本は火山国であるが故に世界一の黒ボク土に恵まれ、農業生産物が美味しいのですが、その中でも上宝は、焼岳の噴火のお陰で本郷段丘、宮原段丘、見座段丘が形成され、山間部でありながら広大な平地で農業生産に適した形状になっているのです。

大原騒動は、その土地の農業を守ろうとした農民の熱い心が結集したものであったに違いありません。



「上宝は農業移住者の羨望の的になる」

去年の秋に、上宝を訪れた津川暢彰（つがわのぶあき）さんという自然栽培農法を志している29歳の青年が、即座に今年3月からの上宝移住を決めました。色々な土地を探していたけれど、こんなに恵まれた土地と優しい人がいるところはないとのことでした。

私は上宝がこのような恵まれた土地にあることは最近知ったことですが、何より他の地域以上に優れているのは、高齢者の皆さんの人間力です。私は、上宝が高齢者の皆さんの存在によって守られていることを深く実感しています。上宝に移住して幸せです。 金住

試練の年だった 飛騨れんこん2022

3月に大がかりな改修工事が始まり、種れんこんの植え付けが5月の連休を過ぎてからになってしまった飛騨れんこんでしたが、今回は非常に厳しい条件での栽培となりました。

何が困ったのか？？まずは底にブルーシートを敷いてあるにもかかわらず水がたまらない。そしてやっと溜まった水が漏れないように排水管に詰め物をすると、雨が降ったり用水路の水が多くなったりするとあちこちでオーバーフローしてしまうこと。これはご迷惑をかけてしまいました。

そんな状況で留守をしたら水涸れで田んぼの土にひび割れができたこと。雑草取りは今まで見たこと無いような雑草が沢山生え、特に水草のような根がびっしりと詰まった草に占領され、収穫のころには土がとても硬くなってしまったこと...等々困ったことのオンパレードでした。今まで順調だった分、今回一気に苦勞が来た〜〜〜って感じでした。



さて植え付けた蓮根は芽は出たけれどなかなか大きくならず、葉も例年に比べたら小さく、色も濃くならない。密集するまでは至らなかったのですが、れんこんはそんなにヤワな作物ではない！！きっと地中で育ってくれている！と期待と願いが入り交じった複雑な心境でした。こればかりは掘ってみないことには分からない。

いつもなら10月の中旬には掘り始めるのですが、今回は11月に入ってからようやく掘ることにしました。

葉も小さく濃い緑にならない！



お手伝いの皆さんでお弁当

いざ掘り始めると、雑草が多かったせいか、水が入っているにもかかわらず予想以上に土が硬く、水圧ポンプを使っても思うように掘れませんでした。れんこん掘って心が折れそうでした。いや、実際初めて心が折れました。(T_T)

れんこん自体も例年に比べると全体に小さく、今年はお荷できる状態ではないのかな？と弱気になってしまいました。それでも毎年お手伝いに来て下さる皆さんと掘ると、中には立派なれんこんもありました。



立派なれんこんもありました！

例年扱って頂いている駿河屋アスモ店様には、今年はお納品できないかもと話したところ、店頭においてみたら売れ行きがよかったので、いつも通り入れて下さいと注文を頂きました。何と嬉しい事でしょう！！

れんこんは強かった！！美味しかった！！

収穫量はいつもより少なかったのですが、味はいつも通り美味しく、奥飛騨れんこんは困難にも負けない強いれんこん！と思い知ることになったのでした。奥飛騨れんこん上宝、恐るべし！！です。

1人の高齢者が亡くなると一つの図書館がなくなる

この言葉を聞いたことがありますか？

地域によって言い伝えは違うかもしれませんが、この言葉が意味するところは国や文化が違っていても信実だといいます。高齢者は過去と現在、そして未来を結ぶ大事な役割を持ち、その知恵と経験は社会にとってかけがえのない宝物なのです。今こうして暮らせているのも高齢者の方々の苦勞の上に成り立っているのだとつくづく思うのです。



昨年12月、残念なことに川上岩男さんがお亡くなりになりました。十六銀行に勤め、胃癌の大病をしてからは、自分の病気と向き合い、自分の身体の免疫力を高めることによって自分で病気を克服しようと決意されました。そこで実行されたのが上宝の山歩きでした。

カメラを片手に滝を巡り、その道すがら出会う地藏様を撮り歩いた実行力によって、いつの間にか身体に巣くっていたがん細胞を消滅させてしまったのです。

がん細胞が自然のエネルギーの力で消滅することは、川上さんは医学的にも知っていました。

川上さんの遠縁の親族に千島喜久男さんという素晴らしい学者がいました。明治の人ですが、生物学者で「蘇る千島学説」で有名な「腸内造血説」を唱えた人です。上宝で出生しました。



川上さんは、千島さんの公演ビデオテープも保管しており、それらを含めた川上さん収集の蔵書を上宝郷土研究会に寄贈され、「川上岩男文庫」として我が社の「上宝夢工房」に収められています。



千島喜久男さんは、日本の医学界を根本的に変革できる学説を展開しています。



川上さんの死によって、一つの図書館をなくしましたが、その代わりに文字通り川上岩男文庫という一つの図書館を残されました。川上さんの撮った写真の数々や、千島さんの書籍はいつでも閲覧できますので、川上岩男文庫をご利用下さい。

謹んでご冥福をお祈りいたします

自然栽培への期待

日本の農法には、化学肥料・合成農薬を使う「慣行農法」が主流で、これを見直す有機肥料・非合成農薬使用の「有機農法」が普及されてきています。上宝での現状は、従来からの農法の中で耕作放棄地の活用で大いに貢献されている「和仁農園」と「まんま農場」によって有機農法が全面的に採用、両会社とも「全国米の食味コンクール」で毎年のように金賞を受賞しています。

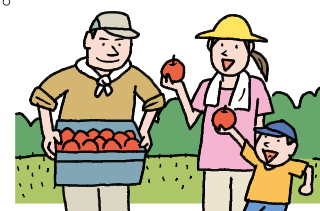
政府も有機栽培の普及のために、2050年までには稲作主体に耕作面積の25%実現を目指しています（みどりの食糧システム戦略 参照）。これからの日本の農業は政府や地方自治体の支援無しに食糧自給率37%の危機的状況に対処できません。その中で、石川県羽咋市は「JAはくい」と協同して、自然栽培農法の普及に取り組んでいます。

自然農法は、有機農法を更に進めて、完全無肥料・無農薬で米や野菜を栽培する農法です。この代表的事例は「奇跡のリンゴ」で有名な木村秋則さんによる実践例ですが、羽咋市では木村さんに学び取り入れています。

自然栽培は、いっさい手を加えない自然農法とは違い、作物自身を持つ能力を発揮させるために、外部からの肥料を投与するのではなく、土壌中の微生物の働きを利用して作物への養分補給を促す人的管理をする方法です（「自然栽培の手引」）参照。

日本の米と野菜の国内栽培自給率は高水準ですが、種・肥料・農薬など生産に伴う資材は圧倒的に外国からの輸入に依存していることから、将来的には日本の食糧危機が現実化する恐れがあると言われています（「世界で最初に飢えるのは日本」参照）。

自然栽培は有機栽培とともに、将来の日本の農業の希望の星です。



我が社は、今年の春から自然栽培による野菜づくりを展開します。

その担い手として、羽咋市の講座の講師であり、自らは富山県氷見市で合同会社 NICEFARM を立ちあげ自然栽培の実績を積み上げている廣和仁さんを指導者とし、羽咋市の講座の研修を卒業し上宝の移住者となる津川暢彰さんと、現在石川県七尾市で「のと里山農業塾」を受講中の得能憲治さんを実践者として展開します。得能憲治さんも既に上宝への移住を



津川暢彰
二九歳



得能憲治
四五歳

決めています。我が社では既に展開している有機栽培の「奥飛騨れんこん」の栽培とともに、農繁期には人手を要しますので、上宝の皆さんにお手伝いして頂く仕組みを考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

